



バオバブの木



ビクトリアの滝



NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ニュース第 11 号 (H25.5.9)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄

はじめに 五月ですね。宮崎では新緑がすでに濃くなってきましたが、北海道では雪が降ったり、日本も本当に南北に長いのですね。

当法人のホームページができましたので、山元先生の甥ごさんのレポートと併せてお知らせします。

会の経過報告

法人のホームページが、吉野会員のご尽力によりできあがりしましたので、お知らせします。ご覧頂くと共に、どうぞ多くの方にご紹介してください。よろしくお祈いします。 <http://ormz.or.jp/>

会費納入等について

新しい事業年度となっておりますので、賛助会費(一口 5000 円、一口以上)の送金をお願いします。ニュース 10 号でのお知らせ後、多くの方から送金していただきました。ありがとうございました。またできれば、より多くの方に賛助会員になっていただくよう呼びかけていただけるとありがたいです。よろしくお祈いします。連絡先は法人代表 [✉ info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) 又は日高 (hidaka1956@gmail.com) です。

- ★ゆうちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351
加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会
- ★他の金融機関からの送金 ゆうちょ銀行 店名：179、預金種目：当座、口座番号：0126351
加入者名： NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

活動報告 (山元良寛様からのご報告 ～カナカントパ巡回診療に参加して学んだこと～)

私は、3月23日から4月7日までの約2週間、アフリカ大陸南部に位置するザンビアという国で、ボランティアとして活動に参加してきました。

叔母がそこで、医師として地域を巡回し診療しており、その話を以前から聞いていて、自分も、大学3年になり、そのような体験ができるのは、今しかないと思い参加することになりました。巡回診療の大まかな内容は聞いていたので、こんな感じだろうという想像はしていました。しかし、結果から言うと想像とは全く違ったものでした。

診療の前日に、車に薬や机、椅子などを積んで準備し、次の日の朝6時には事務所を出発しました。まず、チペンビというカナカントパに向かう途中に通る小さな村のヘルスセンターに立ち寄りしました。そこで、一緒に活動をする看護師とスタッフの2人を乗せて、カナカントパへと向かいました。そこからカナカントパ

への道のりは、事務所からチペンビの道も悪かったのですが、比べられないほど悪く、あちこちが陥没しており、通れば砂煙が舞い上がり、小さな池のようなところも越えていかなければなりません。そんな道を1時間ほど進むと小さなヘルスセンターが見えてきました。道中ではほとんど人を見かけなかったのに多くの人がすでに集まっていました。その状況を目の当たりにして、この日をどれだけの人々が待ち望んでいたのか、自分たちがこれからやろうとしていることの意味の大きさを感じ、自分ができることを精一杯やろうと思いました。まず、着いてから荷物を全て下ろして、ヘルスセンター内に診察室、妊婦健診室、受付所作りから始めました。そのヘルスセンターは、1年以上前に完成したもののなかなか医師や看護師などの目処が立たずにそのままの状態になっていました。そのため、まず事務所から持ってきたものを使い、一から診察所を作り上げなければならぬのです。外にはぐったりした子供や泣いている赤ちゃん、弱っているお年寄りなどたくさんの人が列を成して待っていました。できるだけ早く診察が始められるよう素早く行動し、なんとか10時過ぎには、診察を始める準備ができました。診察を開始する前に、マラリアなどの病気を予防するためのヘルストークをスタッフのシバンダさんが始めたので、叔母に写真を撮ってきて欲しいと頼まれ、写真を撮りに外に出ました。外にはシバンダさんを囲み、たくさんの人が熱心に話を聞いていました。この地域に住んでいる人たちは、病気の予防や治療法を知る機会が少ないために多くの命が失われていると聞きました。このトークがどれだけ大切なのかと考えさせられました。それから受付所に行き、患者一人一人に診察で使うノートの配布の手伝いをしました。このノートは医師、準医師や看護師が診察した内容を記入し、後に薬を出してもらうのに使います。一度、診察に来た人はノートが既にあるので番号札を渡してもらえばすぐに通すことができるのですが、初めての人は、年齢、名前や住所を聞き、ノートに記入しなければなら



ないために時間がかかります。この日は、新しい患者さんが多く、受付がとても混雑してしまいました。みんな早く診察を受けたいために押し合いになり、子供は泣き、親は言い争うという最悪の状況でした。しかし、それだけみんな必死で命にかかわることなのでそうなるのは、自然な流れだと思いました。その時巡回診療をサポートしてくれているコミュニティの年配のおじさんがちゃんと列を作れとなだめて、なんとかバラバラではありましたが列ができ言い争いはおさまりました。それからどんどん患

者さんの中を通し、熱がある人はマラリアの検査、妊婦さんは、妊婦健診室にと流れがだんだんできてきました。その状態が4-5時間程続きようやく落ち着きました。(この日は診察と妊婦健診で合計237人だったと後で聞きました。)休憩をとるために外に出てみると大きな木の下で小さなマーケットが開かれていたり、子供たちが追いかけて遊んでいたり、お年寄りが陰で談笑していたりととても日常的で当たり前の風景でした。この当たり前の風景を作り出すために医療があり、巡回診療のような活動があるのだと感じました。今まで日本で平和な毎日を過ごし、このようなことが行われていることは知ってはいたものの関わることは全くありませんでした。そんな自分がこのような活動に参加することができました。ほんとうに微力ではありましたが、少しは役に立てたのではないかと思います。やろうという思いさえあればこのような活動に参加できるのです。それを、改めて考えさせられました。

この2週間の経験で学んだことは、計り知れません。この学んだことを今後の生活の中に生かし、たくさんの人に伝えていかなければと強く感じました。この現状を変えることは容易ではありませんが、自分には、伝える義務があると思います。このレポートもそのような思いから書きました。自分ができる範囲で自分が体験したすべてをまわりの友人たちに伝えていきたいと考えています。

